平成２６年度

あさか女と男セミナー報告書

みんな（女・男）でつくる安心な家庭

～こころ健やかな毎日を守るために～

第１回
気がつけばあなた（妻・夫）
～やわらかな関係づくりのために～　講師　村瀬　幸浩　氏

第２回
女性の不調を吹き飛ばそう！
～健康美を目指すあなたのために～　講師　堀口　雅子　氏

第３回
その命、絶対守れる！
～自分の心と身体の力に気づいてほしい～　講師　橋本　明子　氏

第４回
その情報、安心して使っていますか？発信していますか？
～情報の渦に巻き込まれないために～　講師　前澤　太郎　氏

第５回
男女共同参画を学ぼう
～安心な家庭をつくるために～　講師　矢口　悦子　氏

主催／朝霞市　　企画・運営／あさか女と男セミナー企画・運営協力員

第１回　気がつけばあなた（妻・夫）

～やわらかな関係づくりのために～

講師：村瀬　幸浩　氏

＊＊＊＊＊ プロフィール ＊＊＊＊＊

東京教育大学（現在の筑波大学）卒業。私立和光高等学校保健体育教師として、２５年間勤務。この間に総合学習科を兼務し、「人間と性」についても教える。１９８９年同高校を退職。同年４月から、一橋大学講師として「セクソロジー」、いわゆる性科学を担当。１９８２年には、「人間と性　教育研究協議会」の設立に参画し、現在は同会の幹事、副編集長を務めている。また、日本思春期学会名誉会員、性の健康医学財団評議員でもある

★★★★★ 著書 ★★★★★

「性のこと、わが子と話せますか？」　集英社

「すてきな夫婦暮らし－６０歳からのスローライフ」（村瀬敦子共著）　旬報社

「セクソロジー･ノート… 性、もっとやさしくもっとたしかに…」　子どもの未来社　ほか

人間の性は文化

こんにちは。ご紹介いただきました、村瀬でございます。

自分は割と早く結婚をしたんですが、結婚をしたあと、一緒に暮らすというのは非常に厳しい。愛し合ったはずなんだけれど、一緒に暮らすと、自分の男の素が出てくる。それから、素の女の性と出会うわけですね。つまり、結婚というのは、性というものを介在した特別な人間関係のはずなのに、その性の問題をお互いに正直に伝えたり、正直に聴いたり、コミュニケーションをするテーマになっていないんです。このことに気が付きました。

そして、結婚生活が始まって、だんだん幻想が剝がれていくと、お互いにこうじゃなかったというのが出てくるわけですね。性別役割分業みたいなのが当たり前と思っていましたから、二人の間に思い描くものがどんどんずれていくわけです。

私は、いい関係を作りたかったんです。幸せになりたかったです。妻にも、楽しい人生を送ってほしかったです。考えてみると、どうも性の問題が鍵だと、このことが関係をぎくしゃくさせている、きしむ原因になっているということに気が付きまして、私は密かに勉強を始めたんです。それから、本当の結婚生活が始まったというふうに私は思っています。

そのことを通じて、セックスは本能じゃない。本能的に性がうまくいくわけじゃない。関係の問題であり、そのためには、伝え合う、学び合うというのは欠かせない。人間の性は文化なんだと。だから、男も女もいろいろということも含めて、学び合わなければ分からない。人間の在り方そのものですね。

この問題は人間の幸せ、不幸せを分ける大きなテーマの一つというふうに私は思いたいし、夫婦問題は決して二人だけの問題じゃない。結婚ということを若いうちからちゃんと勉強することが大事だとつくづく思います。日本は、婚姻関係にすぐなるんですが、結婚ということをもっともっと慎重に考えなくてはいけない。私は、「慎重な結婚、大胆な離婚」と言っているんですけど。ところが、多くはね、慎重な結婚じゃなくて大胆な結婚をするんです。結婚とは何かということを、もっと若い人たちに教えていかなくてはいけな

いとつくづく思っています。

恋愛と結婚の違いとは？

すばらしい恋愛がすばらしい結婚につながると思い込んでいるんですが、私は、恋愛という関係と結婚という関係は、ずいぶん違うんだということを教えているんです。恋愛というのは、熱病という病気です。恋愛という関係はパッションですよ。情熱です。結婚はそうではなくて、むしろインティマシーということばを使うんですが、愛着、信頼、そういったものが基本です。つまり、恋愛は非日常だけど、結婚は日常なんです。ごまかしようのない存在として関わらないといけないんですよ。夢や幻想は、消えるんです。

結婚という関係は、二人で作るもの。恋愛という関係は、できちゃうものなんです。結婚というのは、地道な、そして二人で努力して、お互い欠点を認めながら、受け入れながら、二人で作り上げていく。そういうエネルギーと時間のいる関係なんですよ。この覚悟がないまま、結婚はしちゃいけないですね。結婚生活は面倒なものです。だって、自分と感情も育ちも違う他人と暮らすんですよ。相手の人間観とか生き方とか、人間関係づくりとか、セックスをどう考えているんだとかね、そういうことが、ごまかしようがなく問われるんですよ。

私はだから、戯れに恋愛してもいいけれども、戯れに結婚するな、ましてや戯れに子どもを作るなということを、大学生に強調しています。

結婚したから幸せになるなんていうのは思い込みですから、結婚したらどういう関係を作っていくか。相手から幸せをもらおうじゃなくて、自分の方から関係づくりのための努力をする必要があります。そういったことをどこまでしたかということを問われますよ。ということを考えた上で、自分の弱点は何なんだろうか、自分の欠点はどういうところにあるんだろうかという自己批判、自分を見つめるという気持ちをなくしちゃいけません。

夫婦をつなぐもの

夫婦をつなぐものは何かということも問われるんです。これからの結婚をつないでいくのは、情緒的きずなと、性的きずな、この二つだということです。これがとても大事で、私たちに問われている大きな能力、努力なんですね。情緒的きずなというのは、精神的なつながりですね。つまり、一緒にいて楽しい。一緒にいることに意味があるという、そういった精神的つながりがあるかということです。そういうきずなは、作ろうとしなければ絶対にできませんから。ちょっと言い換えて、精神的連帯感ということばを使っています。お互いに大変だな、大変ですねという気持ちを持っていて、そして、ご苦労さんと言ったり、ありがとうと言えるような、そういった気持ちを持っているかというのが、情緒的きずながあるかないかの問題です。もう一つは、性的な意味において、お互いが意味のある存在であるかどうかです。

情緒的きずなや性的きずなは、きずなを作り続けようという双方の努力がないと、片方だけではきずなは作れません。そこに、これからの結婚の非常に大きな難しさと、あるいは楽しさがあるんです。そのきずなを作り続けるのは面倒なんです。お金もエネルギーも時間もかかります。

関係づくりの基本は、聴くことです。しゃべることも大事だが、聴くこと、聴いてくれるからしゃべれるんですよね。私は会話じゃなくて聴くことが大事だと思っています。聴く能力が、実はコミュニケーションの一番の核です。リッスンこそ愛、リッスンこそコミュニケーションの核。そ

ういったことをしていく努力が、実は結婚生活なんです。関係を作っていくにはですね、努力をしないといけません。気持ちだけじゃなく、共に行動することで生まれる信頼、愛着、慈しみです。

インティマシー、親密性、相手を大事にしたい、してあげたい、してほしい、相手の願望、欲望、そういったものをちゃんと受け止めて、どう応えられるかということをお互いに表現し合えること、これこそが結婚の醍醐味です。そして、その親密性は、共に過ごした時間と費やした努力に比例する。努力もしないでいい関係なんか作れっこない。共に過ごさないで、相手の感情を理解するっていうのは不可能ですよ。夫婦は他人なんですから。夫婦だから分かり合えるなんていうのは、全くうそです。これは幻想です。

関係を作るということは、自己開示と相手の気持ちをしっかり受け止めるという柔軟性ですよ。思う通りにならない人間とどうやって一致点を見つけていくかでしょう。その努力をパートナーシップというんです。実は、結婚してから関係を作る努力が始まるんです。そのことをパートナーとどう共感し、共有できるかということがね、結婚生活を楽しくするかどうかということの分かれ目です。お互いの努力のスタートは自分から始める。自分は変わらないでおいて、相手にだけ変われというのは無理です。そして、関係は変えていけます。

リタイア後の性と生

若さということは、魅力ではありません。お互いにいたわるとか、支え合うとか、まさにコミュニケーション能力が問われていくんですよ。そして、自分のことを分かってくれている、あるいは分かろうとしてくれているという気持ちが二人をつないでいくんですよね。

若い頃から老いていくということを受け入れ合って、お互いの体の性をいたわる。そして、老いていく体や性を楽しみ合う。触れ合う、ぬくもりを分かち合う、そういう性の考え方に切り替えるというのが非常に大事です。そうしたら、老いていくということは、そんなに苦痛じゃありませんよ。

「やわらかな関係づくり」というのは、そういうお互いの意識改革と、具体的な行動変革を通じて初めて可能なので。そういう意識と努力をすること。関係はできるものではなくて、二人で作るものです。

参加者ひとこと感想

○　何となく参加してみようと思いましたが、先生のお話を伺って、妻ともども、とてもよい時間を過ごすことができました。今後の二人の生活に光明が見えたような気がしました。

○　夫婦をつなぐのに、情緒的きずなと性的きずなが大事。核となるのは、相手の言うことを聴けるかどうか。よい関係＝時間と努力に比例する。ためになる講義を本当にありがとうございます。

○　コミュニケーション能力で一番大切なのは、「話す力ではなく聴く力だ」ということば、一番心に残りました。そして、相手がいるから生きている…ということも、とても重いことばだと思いました。

第２回　女性の不調を吹き飛ばそう！

～健康美を目指すあなたのために～

講師：堀口　雅子　氏

＊＊＊＊＊ プロフィール ＊＊＊＊＊

群馬大学医学部卒業。虎の門病院産婦人科に３０年間勤務。現在は、主婦会館クリニック、女性成人病クリニック等に勤務している。女性の健康に関する講演、講座のほか、数々の著書を執筆している。

★★★★★ 著書 ★★★★★

「更年期障害これで安心―つらい症状と不安を解消」　小学館

「お医者さん夫婦のカラダにやさしい長生き養生訓５６」（堀口貞夫共著）　マガジンハウス

「女性のための女医さんガイド」　法研　ほか

節目、節目の自分の体を知る

女性の一生には、節目というものがあります。乳幼児期、思春期、成熟期、更年期、老年期です。どの部分をとっても、過去の積み重ねであると同時に、これから先、歩いていくための土台づくりですね。現在は過去の集積であるけれど、気が付いたところで立て直すことができます。

３０歳から３５歳の女性は、自分自身の問題も大事だと同時に、もし結婚してらっしゃればパートナーのこと、子どもがいれば子どものこと。子どもがいなければいないなりに、いろいろなことがあります。５０歳くらいの女性には、閉経です。月経がなくなって損をしたような気分になる人、なくなったことでより元気になり、海外旅行などを楽しむ人、「なんだってできるわ」と前向きに喜ぶ人もいます。子宮は、鶏の卵大だと言われています。卵巣はうずらの卵大です。若い頃は活発にホルモンを分泌しますが、５０歳を過ぎると梅干しの種みたいにしなびてもう働きません。しかし、非常にまれですが年をとっても卵巣がんになることがあるので、なにか下腹部が気になるときは受診してください。

更年期以降注意すべきものは、骨粗しょう症です。年をとると、骨がスカスカになります。骨のもとは、カルシウムとコラーゲン。ビタミンＤも関係があります。カルシウムを取って日光を浴び、そして女性ホルモンの助けを借りて骨をつくるのです。骨は古いものがずっとあるのではなく、古い骨を溶かして血液中に流して、また新しい物をつくるのですが、女性ホルモンの減少によって、骨がスカスカになってしまうのです。また、運動も大切です。運動をすると、筋肉が増え骨も形成されていきます。毎日の積み重ねが大事です。脳細胞の刺激も大切です。骨折をしてしまい、静かに寝て骨がつくのを待っていると、特にご年配の方はどんどん脳の細胞も退化して、ついには寝たきりになり、周りにいる人に迷惑がかかるということです。

現在の女性の平均寿命は８７歳。初経１３歳、閉経が５０歳と考えると３７年間月経があった

ことになります。閉経５０歳、寿命８７歳と考えると思春期から女性として生きてきたのと同じ年月を閉経後生きるのですから、元気に明るく生きてほしいです。更年期以降の問題として、体型、シミ、しわ、記憶力・体力の低下、とても嫌ですね。男性が女性の更年期に対して、理解が足りないところもありますね。「お前、朝俺が出ていったあと、何もしてないじゃないか。」って、更年期の変化が強い人はもう何もできないぐらいお家の中にいてつらいんだけど、それが分からない。それから、子どもの問題。今まで、「お母さん、お母さん」と言っていたのに、会話も減り、食事も恋人や友人との外食が多くなり孤独感が増す「空の巣症候群」ですね。膀胱も弾力性を失い漏れやすくなるので、トレーニングをしておいた方がいいと思います。皮膚も弾力性を失い、艶がなく、しわが出てきますね。体の変化があるとすべて、更年期の症状だと思い込んでしまうことがありますが、ほかの病気も考えられますので、専門の科で検査をしてもらうことが必要です。

女性のがんの種類としては、３０代は子宮がんが多く、続いて乳がんです。４０代は乳がん、子宮がん、また、５０代は乳がん、胃がん、子宮がんです。６０代は胃がん、乳がん、大腸がんです。このようなデータがありますので、気を付けましょう。昔に比べ卵巣がんが増えています。昔は子どもを５人や１０人は産んでいましたので、排卵している期間が短いのです。今の人は、１人か２人しか産まないわけですから、排卵の回数が多いのです。排卵するたびに、卵巣が破れて傷ついているわけですから、傷つくということは、がん化につながりますよね。ピルを使用すると排卵を抑えますから、卵巣は妊娠したときと同じように眠っているわけです。だから、ピルを使用することで、最近は卵巣がんは少し減っています。

更年期

更年期は閉経を中心に前５年、後５年の約１０年間で、卵巣が定年になるということです。女性ホルモンの分泌が減ると、体全体がうまく調整できなくなって変化が起きる。これが更年期の症状です。この年代の約８０％の人は、「なんだか変ね」という程度の症状ですが、あとの２０％の人は、とてもつらい症状がでる。これを更年期障害と言います。症状の強い人が目立つから、更年期＝大変と思われてしまう。今は、ホルモンを補充する方法があります。また、漢方薬も血液の流れをよくして、精神を安定させてくれる、一つの方法です。それから精神安定剤も、ちゃんと先生からもらっていれば大丈夫ですね。周囲の人は、話を聴いてあげてください。「こうした方がいい」と言うのではなく、ひたすら聴いてあげることが大切です。

思春期

思春期には、胸をときめかすこともあるでしょう。異性に関心を持つのは当然です。でも、もっと近づきセックスをすると、妊娠の可能性も出てきますよね。そこで、そうしたらどうなるかということを考えて、「ＮＯ」と言える女の子になってほしいのです。「ＮＯ」と言われたときに、立ち止れる男の子になってほしいと思います。立ち止まれる男の子を選んでほしいのです。

それから、お子さんやお孫さんがいらっしゃる方、性の問題を聞かれたとき、「そんなこと聞くもんじゃないわよ。」って言うと、そういうことはいけないことと思っちゃうから、さりげなく簡単に「それ、こうなんだよね。」っておしゃべりできるようなお母さん、おばちゃんになっていて

ほしいですね。そして、その年代に役立つ本を、どこかにさりげなく置いておくの。

出産年齢

お母さんのお腹の中にいるときは、卵は７００万個くらい作られています。産まれるころになると、２００万個になり、思春期までだんだん減って、初めて月経をみるころには３０万個くらいに減っています。それで、月に１回卵を出して、１年に１２回、思春期から更年期まで４０年間くらい。一個だけではなく、数個は一緒になって消費されます。だから、年齢が上がるとどんどん数が減っていくわけです。結婚に適齢期はないけれども、卵巣には定年があります。ですから、赤ちゃんを産みたいと思ったら、３５歳くらいまでに産む方向にいってもらいたい。なぜなら、遅くなるほど妊娠しにくくなったり、流産しやすかったり、受精卵（染色体）に異常があったり。ですから、できるだけ早い時期、卵が元気なときに産むことです。

お年寄りへの接し方

お年寄りが身近にいる場合は、お年寄りはいろいろな成育歴を持っていますから、その歴史を大事にして、尊重してあげたいと思いますね。そして、その人の個性を伸ばして、やれることはやらせてあげましょう。とにかく、その人の個性を大事にすることが、共存共栄のいい形ではないでしょうか。

性同一性障害その他について

このごろ、ＧＩＤ、性同一性障害ということばを聞くことがあると思います。いろいろな人がいていいんですね。男でありながら男が好き、女でありながら女が好きという同性愛、男も女も好きな両性愛もあります。男として生まれても、自分は本当は気持ちの上では女。逆に女として生まれても、本当は男なんだと考えながら生きていく性同一障害の人、これらの少数派の性というものも勉強してほしいですね。

健康について

自分自身をよく知ることです。また、自分と異なる相手のこともよく知ることです。男性にも更年期があります。精巣からホルモンを出していますが、年とともに徐々に減ってきます。また、性差医療というものがあり、女性と男性ではかかりやすい病気の種類や症状、薬の効果が違いますね。女性外来とか、女性医療とか言われるようになってきましたが、性差に応じた幅広い医療が行えるようになるのがいいと思います。心の変化、体の変化とうまくつきあい、お薬を活用したり、また定期的な検査と、運動、食生活等に気を付けることだと思います。

参加者ひとこと感想

○　有名な先生のお話を、こんな近い距離で、しかも少人数で聴くことができて、よかったです。朝霞市民であることが本当に誇り高い気分、いつもすばらしい企画が多く感謝しています。もっと沢山の方が参加すればいいのに。もったいないですね！

○　これから起こるであろう症状など、いろいろと学べてよかったです。病院の先生でも、とても親身に相談を受けてくれる方もいるんだなと、掘口先生の人柄に引き付けられました。ありがとうございました。

○　健康は「備えあれば憂いなし」なので、有酸素運動や、食生活に気を付け、美しく豊かに老いていきたいと思いました。ありがとうございました。

第３回　その命、絶対守れる！

～自分の心と身体の力に気づいてほしい～

講師：橋本　明子　氏

＊＊＊＊＊ プロフィール ＊＊＊＊＊

１９９５年、児童虐待防止活動を開始。２０００年、ＣＡＰスペシャリスト、２００２年、ＷＥＮ－ＤＯ普及資格を取得し、２００４年にＷＥＮ－ＤＯのインストラクターの資格を取得する。各地でワークショップ等を開催し、ＷＥＮ－ＤＯの普及を推進している。

★★★★★ 著書 ★★★★★

「セルフ・ディフェンス　あなたは正しい！」　三五館

ＷＥＮ－ＤＯとは

ＷＥＮ－ＤＯとは、ウェンはＷＯＭＥＮですね。ＷＯＭＡＮの複数形です。ドーは合気道とか柔道の武道のＤＯです。カナダのトロントで開発されたプログラムです。考え方は、３つのＡからなっています。

①Awareness（アウェアネス）・・・気付くということ

②Avoidance（アヴォイダンス）・・・その状況をよけたり、避けたり、逃げたりすること

③Action（アクション）・・・具体的な護身術を使うこと

一般的に考えられていた護身術と違って、いかによけて、避けて、逃げるきっかけをつくるかというもの。逃げるときに、加害者をなるべくビックリさせて逃げたい。護身術には、いろいろな技があるのですが、何より大切なのは、知らない人が来たときや自分が「嫌だなあ」と思ったときに、相手から離れる勇気を持つことです。大人の腕で２本くらい、まだ指先が届かないのが安全な距離です。

体を使って練習

☆もし相手が頭を使って近づいてきたら・・・

（小さな声で話しかけてくる、地図を持って聞いてくる等）

・ヴァー（大声）と言って逃げる

・安全なげんこつを大きく回して下まで振り切る（ハンマーパンチ）

・イーグルクロウ

・ナイフハンド

・相手のすねを蹴る

転んで倒れたところから、体をひねって蹴る

☆後ろからガバーっとつかまれたら

・足を横にして、相手の足の甲を踏む→相手の髪をつかんで鼻を頭突き

・鼻やすねなど、鍛えても鍛えられないところが急所→急所の怪我をしても直りやすいところを狙う

自分に自信を持つ

あなたは、褒めてもらうとうれしくなりませんか？うれしいという気持ちがすごく大事で、自信になる。自信がある人は、暴力の始まりに気付きやすいのです。自分が「嫌だな」と思うことを、我慢してまで人に親切にすると、結局自分を傷つけることにつながっていきます。

あなたの体は誰のもの？と聞かれたら、どう答えますか。私ですよね。自分がやりたいことは誰が決めますか？自分ですよね。基本的に、私がやりたいことは私が決める。私の体は私のもの。

Ｗｈｏ　ｉｓ　ｙｏｕｒ　ｂｏｓｓ？

答えはすべてＩ　ａｍ．なんですよ。Ｉ　ａｍ．にできるようになりたい私をイメージして・・・

参加者ひとこと感想

○　明るく楽しく教えていただけて、本当によかったです。「自分の気持ちを大事にする」そして、遠心力を使いうまくよけて、避けて、逃げたいと思いました。ありがとうございました。

○　自分をもっと大切にしていいんだ、自分本位もありなんだと気付きました。

○　心を守る、“護心術”のことばが心に残りました。何はともあれ、自分に「自信を持つこと」って大切なのですね。体を動かすことにあまり自信がなかったので、始まる時は心配なこともありましたが、難しいこともなく、簡単に取り入れられることを知り、実践したいと思いました。ありがとうございました！！

第４回　その情報、安心して使っていますか?発信していますか?

～情報の渦に巻き込まれないために～

講師：前澤　太郎　氏

＊＊＊＊＊ プロフィール ＊＊＊＊＊

学校法人、企業Ｗｅｂサイト、デザイン製作を受注し、ソーシャルメディア対応、スマートフォンアプリ制作などを行っている。また、教育現場での情報通信技術の活用や、ソーシャルメディア・リテラシーセミナーでの講師を務める。

はじめに

スマートフォンに代表されるインターネットというものは、今までにないものでした。新しいものです。すごくいいところもあって、今までに思いつかなかったようなことができます。とても便利です。ただし、物事には何でも裏表がありまして、たとえば包丁は、切り方を親に教わればおいしい料理が作れます。でも、使い方を間違えれば指を切りますし、友達を傷つけます。当たり前のことですね。

便利なものは、その反対の側面を持っています。それを、残念ながら、多くの人は知りません。子どもたちは知っていますが、その知り方が中途半端です。例えば我々が、繁華街に夜中に行ったら怖い思いをします。それを知っているから、夜中にそんなところにはめったに行きません。でも、子どもは知らないから教えてあげるしかない。それは、僕らの責任だと思っています。皆さんにインターネットがどういうものかを知っていただくことで、周りの人、特に子どもたちを守ることができるのです。今日はぜひ、スマホに対しての知識をつけて帰っていただきたいと思います。

ソーシャルメディアとは

ソーシャルメディアって何？ということですけれど、いっぱいあるものの総称です。ソーシャル、社会のメディア、媒体。我々が知っている代表的なのはマスメディアですね。新聞、テレビなど。ソーシャルは、社会という意味ですが、実はこれは社会の方じゃなくて、「個人と個人がつながっていること」を意味しているソーシャルになります。

ソーシャルメディアとかインターネットを通じて、垣根とか距離とかがすっ飛ばされて、新しい人と人の関係ができます。これができると、いろいろおもしろいことが起きます。簡単に言うと、時間と距離がなくなります。今、アメリカの友人とやり取りをするのに、ニューヨークに行く必要はありません。スマートフォンでもパソコンでもいい、携帯電話でも同じです。ソーシャルメディアという道具を使うと、距離がなくなってしまいます。立場もそうです。

フェイスブックで、ミャンマーのアウンサン・スー・チーさんにメッセージを書いたことがあり

ます。ニュースで知っているだけで私は会ったこともないです。でも、アウンサン・スー・チーさんは３０分後に、返信をくれました。「ありがとう。あなたたちのサポートを私たちは必要としている。これからも応援してね。」と、英語でメッセージを返してくれました。これは立場とか距離とか、役割とかの範囲を超えた、人と人とのつながりを作ることができたいい例だと思います。その人の行動を見たり、言動を知るだけじゃない。メッセージを送って、コミュニケーションをすることができる。そういったインターネットの力というのは、これまでになかったものなので、今までなさったことがない方も、やってみたらとてもおもしろい、興味深い、新しい世界が広がることと思います。

どんなトラブルがあるか

今、子どもたちがストレスを感じている反面、喜びを感じているもの、ソーシャルメディアの典型的なよしあしが全部出てしまっているのがＬＩＮＥ（以降ライン）というものです。ソーシャルメディアというのは、今３，０００くらいあって、毎月新しいサービスが２００個くらいずつ増えています。いろいろ違いはあるんですが、はやりすたりがすごく早く、サービスはどんどん変わります。

ラインの特徴は、私が相手にメッセージを送り、相手がそれを読むと「既読」と表示されます。困ったことに、送っただけじゃなくて、読んだかどうかまで見えちゃうんです。この場合は、返事が１分後にありましたけれど、何時にと書いてある。いつ返事があったか分かっちゃうんです。これは、つらいですよ。便利な機能ですけどね。自分が伝えたことが、相手に届いたかどうか分かるのは嬉しいですけど、でも、これが子どもたちにとってはとても大きな問題になる。読んだのに返事がないのを「既読スルー」と言うんですけれど、読んだのに、それをスルーされたことに対して、「どうして俺の言ったことに返事しないんだ」とけんかの元になります。別にけんかしたくて無視したとは限らないですけどね。なぜあいつは無視するんだと、グループだったら、「あいつは無視するから外せ」とか。ここで行われているいじめは、我々のときと同じです。ただ、リアルタイムなのと、２４時間隙がない。一瞬たりとも許してもらえない。ラインは、この問題が一番大きいと思います。ただし、つながっている人は親しい人が多いので、社会に対して大きな問題を起こすことは比較的少ないです。

フェイスブックというのは、ラインと違って、本当の知り合いじゃなくても相手を探すことができます。ポイントは、実名で登録しないとだめなことです。実名だと仕事で使う人が多いし、この数年は、大学生が就職活動に使ったりしました。自分と同じ大学を出た人を探すことができます。

これはツイッターです。比較的古いソーシャルメディアのサービスの一つです。国内では、１，５００万人が使っているとのことです。ラインに比べると１０％くらいしかいないんですが、これの影響力というのは非常に大きく、いろんなトラブルが起きます。

中高生にとっては、あくまで友達に伝えているんです。多くの人が見るとは思っていないです。悪意があるんじゃないんです。いつもやり取りをしている友達にしか出していないと思っているんですよ。でも、ソーシャルメディア、スマートフォンはインターネットとつながっているのです。つまり世界につながっているのです。知らないだけで、ちょっと考えれば気が付く。決して彼らだけではなく、つい感情で思いついて、リアクションで書いてしまうと、失敗をたくさんします。

「炎上」について話をしますが、ツイッターとか、ソーシャルメディアで投稿したことが、自分の思っている範囲を超えてコントロールできないところまで広がり、本人が非難されたり攻撃されたりすることを「炎上」と言います。今日の話は、不愉快なものがいくつかあります。お許しください。

「炎上」の一つの事例です。２０１２年、一昨

年の１２月、５時に三陸の方で地震があって、その３０分後に「リツイートしてください。地震で家が崩れ外に出られません。がれきの中に閉じ込められています。救助を呼んでください。」という投稿がツイッターでありました。つまり、広く多くの人に伝えてくださいと言っています。この１年半前は震災でした。本当にこういうことがたくさんあって、多くの人が助けられなかった。

１３，０００リツイートと書いてあります。再投稿された数が１３，０００だということです。１２０万人に単純に届いたことになります。ソーシャルメディアって、ねずみ講式なので、一人一人の力が小さくても、再投稿を繰り返すと、とんでもない数に届くわけです。これは、３０分しないうちに本人が、あまりに拡散されたことが怖くなったんでしょうね、「冗談やし、本当に埋もれてたらツイートなんかする暇ないし。」と投稿しました。訂正したんですね。でも、訂正したにしてもたちが悪いですね。みんな心配しますよ。震災から１年半しかたっていないんですよ。みんな怒りました。ふざけるな、投稿者は誰だと、個人情報を探します。実際には高校２年生だったんですが、学校に謝罪しろと電話をかけたり、彼の顔写真とか本名とかがインターネット上に載せられていきます。

「インターネットプロバイダー責任法」という法律が去年できて、自分の不利益になるもの、個人情報などは申請したら消してもらえるようになったんですけれど、現実的には相手のプロバイダーがいうことを聞いてくれない限りは、依頼でしかなくて、必ずしも消してくれません。もう１年以上たっていますが、相変わらず残っています。

彼はあまり褒められた投稿はしていませんが、僕が問題だと思うのは、彼が負った傷は、とんでもなく大きくて修復が不可能だということです。コピーが存在している。本人が消しても残っちゃうんです。動画でも音声でも文字でも写真でも同じです。すごい勢いで、非難、中傷は進みます。数十分とか数時間で拡散して、何千万人という人に届いてしまいます。

求められる情報を読み解く力

今、１８歳以下の人が携帯を契約するときには、東京都の条例、埼玉もそうですけれど、フィルタリングをしないといけません。不適切なアダルトサイトとか詐欺サイトを見ないようにということが法律で決まっていますが、実際には、子どもたちはそんなことはお構いなしです。駅や喫茶店でも今、「ｗｉ－ｆｉあります。」と書いてあります。あれは、無線でインターネットに無料でつなげられます。お子さんのスマホに、子ども用のフィルターを掛けてもｗｉ－ｆｉにはフィルターは掛かっていないので、どこにでもつながります。小学生は、自分の任天堂ＤＳなどのゲーム機から、インターネットを見ることができます。

彼らは、ソーシャルメディアとスマートフォンとインターネットを通じて、世界とつながってしまっているんです。自分が世界とつながることができて便利だけど、そのよしあしを、本当に理解させないといけません。それは、大人が教えてあげるしかない。実際にやってみて傷つく前に教えるのが我々の仕事でしょう。高校生は自分でアプローチして、危ないところなのかいいところなのか自分で判断していいと思います。中学生は、我々がある程度情報を提供してあげないといけないと思います。小学生は、これはこういうところだから行っちゃだめよと制限を掛けるのが、我々の役割だと思います。

僕は、この話から、実は我々の目の前に見えている情報は、かなりコントロールされていることを感じていただきたかったんです。検索結果は皆さん違うと言いました。つまり、僕らは自分の力で物を知ったり読んだりしているつもりだけど、違う。私に提供される検索結果は、私向けにコントロールされたものです。ソーシャルメディアも同じです。私のつながりのある人が見ているものと、皆さんが見ているものとは違うんです。今までのマスメディアの社会とは違う。みんなそれぞれ別々の情報を見ていて、なおかつそれが、ある

広告とか利益のためにコントロールされている。つまり、正しいとか正しくないとかの判断も、個人個人に任されているわけです。

参加者ひとこと感想

○　大変参考になりました。インターネットの恐しさを知りました。使い方をしっかり理解させることが必要だと思いました。本当に参加してよかった。

○　中学生の娘とも、今日学んだ内容を話したいと思います。ありがとうございました。

第５回　男女共同参画を学ぼう

～安心な家庭（くらし）をつくるために～

講師：矢口　悦子　氏

＊＊＊＊＊ プロフィール ＊＊＊＊＊

お茶の水女子大学大学院卒業。博士（人文科学）。２００３年より東洋大学文学部教授。２０１３年４月より東洋大学社会貢献センター所長を務める。社会教育・生涯学習を専門としており、日本社会教育学会事務局長を経験した。長年、日本青年団協議会助言者を務め、各地の青年団活動を応援してきた。また、女性センターを考えるメンバーたちと共に、各地で独自のテーマに取り組む女性センター作りを支援してきている。

★★★★★ 著書 ★★★★★

「イギリス成人教育の思想と制度―背景としてのリベラリズムと責任団体制度―」新曜社

「イギリス労働者教育協会（ＷＥＡ）の女性たち」　新水社（翻訳）

「シェア・スタート事業における親の位置づけをめぐってーマンチェスター市を事例としてー」（論文）ほか

東日本大震災が教えてくれたこと

だんだんとマスコミでも取り上げる回数が減ってきた、３．１１の大震災。私たちは、いろいろ心を動かされ、皆さんの中にも支援活動をされた方や関わりのある方が被災されたという方もおられると思います。世界中から絶賛された、日本中の人々が助け合う強さというものには、すごく励まされました。

しかし同時に、私たち男女平等共同参画が進めばいいなと考えている立場の者からしますと、まだまだ日本では男女共同参画が進んでいないという場面に、何度も出会うことになりました。

その一つが、男女の役割分業というものが非常に根深く残っているということです。特に避難先においては、全体的なリーダーシップは、女性ではなくほとんど男性がとっていらしたということ。女性たちはもっぱら炊き出しや、救援で頂いた衣類の仕分けのようなことを担った。それは、できる人ができることをしたということですけれども、女性でリーダーシップをとれた方というのは校長先生。すでに校長先生として認知されていたがゆえに、皆さん聴いてくれた。

震災が明らかにしてくれたことは、日頃から女性たちも発言をし、力を持っていなければ、いざというときには動けないんだ、ということでした。

私たちの周りはどうなのか

子育てにかかわる男性たちの姿が飛躍的に増えました。「お父さんと一緒」という番組もできましたね。それから、女性たちが活躍するＮＰＯ法人が飛躍的に増えています。これも新しい法律が９８年にできたことによってどんどんできています。さらに、女性の専門職も明らかに増えています。劇的に増えているのが、医者と弁護士。もう少しで過半数超えるんじゃないかという勢いです。

それから、女性から「自分は差別されている」という声はあまり聞かなくなりました。学生たちに聞いても「俺たちが差別されているよ。」という
男性の声の方が圧倒的です。

それから、元気な日本の若い女の子、世界中どこへ行っても「かわいい」とすごい人気です。ファッションとか音楽を若い女の子たちがどんどん発信して、日本で元気なのは女の子だけと言われています。

もう少し目を凝らしてみると

単身で子育てをする女性の貧困という問題が、悲劇的な状況として取り上げられています。経済的に厳しい状況になった場合、自分も大変になる。そうすると、子どもに対してゆったり接することができなくなる。こういう状況にある家庭が相当数あって、子どもの貧困指数が劇的に高くなっています。

子どもの虐待の相談件数は２５年前の６０倍。これは、一つには法律ができたことによって通報義務が発生したため、件数が増えているとも言えます。ただ、虐待によって亡くなる子どもの数は増えていませんので、通報して相談することによって止められている、悲劇になる前に手が差し伸べられている。そう考えれば、相談件数が増えることは決して悪いことではない。みんなが通報義務を認識しているというふうに取れます。しかし残念ながら、暴力の関係に依存する男女、ＤＶが減っているとは言えません。

それから仕事人間化する女性たちの悲劇があります。仕事上の女性モデルがない中で、男性の２倍やって認めてもらうというようなモードにスイッチが入ってしまう。「これからは男女平等の時代だから、同じように仕事しなきゃいけないよ、負けちゃだめだよ」って育てられちゃったんですね。そうすると、「できません」が言えなくなってしまい、だんだん家事も何もできなくなるほど仕事だけする。これはやっぱりまずいと思います。男女平等を目指してきた人たちが願っていたのは、こんな生活ではないはずです。

また、高齢化社会となり、女性の方の寿命が長くなっていますが、女性たちが自由にできるお金は非常に少ない。男女で比べると圧倒的に女性が貧困状態にあって、人間的とは言えない生活をしている人もいるのです。

未婚でバリバリ仕事をしている人を高齢のお母さんが支える問題もあります。今、多くの未婚の男女がバリバリ仕事をして、高齢の親に支えられています。高齢の親の介護の問題はよく聞きますが、娘、息子を支えている高齢者の悲劇はなかなか語られていません。

そして介護殺人事件。夫の方が思い余ってとか、見るに見かねて首を絞めてしまうというケースが多い。しかし、女の人が殺すと、鬼のような妻が夫を殴り殺したという書き方をマスコミはします。実は、これがジェンダーの問題だと思います。男女平等を享受しているような社会に見える中で、実は積み残しのまま同時並行でまだ問題があるんじゃないかと思います。

世代の違いからの断層

考え方にいろんな断層があるために、生き方そのものも大きく変わっています。例えば核家族なのか、拡大家族なのかどちらで生きているかによっても変わってきます。また、ご自身が主婦なのかパートなのかフルタイムなのか、あるいは退職した人なのかによっても見え方、考え方が変わってきます。子育てについても、関係ない方、真っ最中の方、予定されている方、終わった方、どこの位置から見ているか。介護もそう、どこの位置に自分があるかによって見え方が違います。それぞれに深い断層があって、一見同じように見えながら、実はお互いは違う意識を持っているということ。その意識を変えるのは、本当にむずかしいですね。

私たちは、もう何十年も生きてきているわけで、そこで延々培ってきた自分の価値観があるわけです。考え方を少しずつ深めたり、自分で境界線だと思っていたことをちょっと外してみるとか、

こだわっていたことにもう１回光を当ててみることはできると思います。そういう作業をしてみると、知らず知らずのうちにいろんな人との関わりが楽になってくる。つまり、マイペースで生きられるということになりますね。

わがままに生きること。若い頃は「なんてわがままなやつだ」と言われるとカチンときましたけれど、今は褒めことばだと思っています。我が道を行けるのは、相手との距離が分かるようになったとき。揺るがない自分の大事なものを見るぞって覚悟ができたときに、わがままが通せる。それが、もしかしたら意識を変えるということになるのかもしれません。

女性問題学習の歴史から

今から３０年ぐらい前に、母の歴史を書くというのが、若い女性たちや青年たちの中で大ブームでした。母の歴史には、「嫁というのは非常に立場が弱く、苦労して誰よりも遅くまで仕事、お風呂も一番最後で、朝は誰よりも早く起きて、手はいつもあかぎれで、そういう中でも文句一つ言わずに生きていたという母の姿」が描かれます。そのお母さんの姿を書いた最後の感想が、「私はこんな母のようにはなりたくない」となるんですよ。結果、地方の農村・漁村といわれるところから、若い娘たちは都会に出ました。お母さんのような生活はしたくない。お母さんたちも、私のような思いを娘にさせたくないということで、跡取り息子は残すけれど娘は出すという生き方をしていた。今の日本の、限界と言われる集落の根っこにある問題の一つのような気がします。そして、残した息子に嫁がいないという話になるわけです。それで、ついに８９年からは海外からのお嫁さんたちを大量に入れたわけです。

国立市の公民館で６０年代からずっと実践されてきた、公民館に保育室を設けるというものがあります。新しく造られた団地の中で、子どもを産んで、仕事をしていない自分がすごく孤独で、子育てにイライラを感じた。赤ちゃんが泣けばどうしたらいいか、実はおたおたしていたし、自分の子どもだから愛情が湧くはずだと思いつつ、不安に駆られていた。

そんな人たちがいることが分かり、国立に住んでいたおばちゃんたちが子どもを見ましょうって言ってくれた。それで、若いお母さんたちとおばちゃんたちが運動を開始して、公民館に条例を定めさせたんです。それが、公民館の保育室ができた最初の話なんです。その経緯を書いたのが「子どもからの自立」という本です。今岩波の文庫にもなっています。

その後、９０年代の母子関係論、母性神話という本が出てきた辺りから、今度は父子関係がすごくはやります。父親がしっかりしないからこの国はだめになったとか、女性が社会に進出して子どもを育てられなくなったと言うような人たち。子どもは殴って育てろとかいう本を書いていました。殴った瞬間、手のひらとほっぺの間に愛情がある。そういうふうにして、愛のむちを与えながら育てろみたいのがはやって、すごく読まれました。

一方で、ジェンダーバッシングが出てきたのは２００１年辺りです。ジェンダーフリーということばをはやらせたのは国です。国がはやらせておきながら、国がバッシングをしたという話。ジェンダー・イクオリティということばを、日本語にどう訳すかというときに、採用されたのが男女共同参画ということばです。それをジェンダーフリーという言い方で持ってきました。

社会文化的に作られたものがジェンダー。だから、それぞれの文化の中、例えばスコットランド

では男の人がスカートをはいているでしょう。スカートをはいた絵は女の人とされるのは、ジェンダーだと。髪の毛の長さだって、先住民の中には男性でも長い人はいますね。社会の中で男はこうあるべき、女はこうあるべきということで振り分けられてきたもろもろがジェンダーだと。これは、人が振り分けてきたものだから不都合だったら変えていけばいいじゃない。できればそういうものはなくしていこうよ。これを国が推奨したんです。

なのに、１０年もしないうちに、男女共同参画社会基本法ができて、できた法律を見た一部の議員や、一部の人たちがこんな法律が日本にできていいのだろうかと大騒ぎを始めるんですね。「何でこんな法律ができたんだ。男性と女性の特性に配慮した日本の文化を否定するんじゃないか」みたいなことを言い出しました。ジェンダーフリーというのがあちこちに横行して、トイレのマークが変わって、女の子が青いランドセルを背負っているようになったと。女の人ががっちり仕事をしていると。男が胸に赤ちゃんを抱いていると。このままでは、この国はおかしくなるんじゃないかと思った人たちが、「ジェンダーフリーが国を滅ぼす」というキャンペーンを張ったんですね。それで、一気にジェンダーフリーということばは、「ことば狩り」を受けてしまいました。でも、今はまた少し落ち着いてきていて、ジェンダーということばを使うことに、そこまで大騒ぎしないんじゃないかと思います。

ワーク・ライフ・バランス

今、若い３０代、２０代の方たちが期待を寄せているワーク・・ライフ・バランスということば。これは、女性の社会進出を進めるために、厚労省が中心に宣言したのではやりました。働くことと生活のバランスを取らせたいというキーワードになっていますが、理想的な顔と怪しい顔と、２つの要素をもつ要注意なことばだということをお話しさせてください。

①理想的な顔？

・一人一人主体的な人生
・多様な選択が保障されている
・一人の中でもいろいろな組み合わせが可能
・パートナーとの組み合わせでもっと増える
・仕事も子育ても、趣味もボランティアも！！

②怪しい顔？

・想定されている働き方は、誰に都合がいいか
・多様な選択は、そもそもない
・社会的な条件の不備を個人の選択にすり替える
・パートナーにはそのような生活的力がない
・「できないこと」のイメージ拡大によるストレス増大

ワーク・ライフ・バランスというのは、子育て期にある人たちが、自分の人生をこれからどう展望しようかというときに使うキーワードとしても出てくると思います。けれども、よほどしたたかにやっていかなければ、実は何も得られないまま中途半端な忙しさだけがやってくることがあること、そういうところに注意した方がいいと思います。

最後に

漠然とした不安の根に何があるんだろうかと、突き詰めて考えてみたらいいと思います。自分自身を縛っている呪縛、または内縛ということば。制度とか、ほかの人のせいにできるものは外縛だけれど、私たち自身が自分を縛っている内縛を自分で点検し、縛られていないか、本当に私自身が自由に生きようという自分の声を自分で封殺していないかを考えます。

自分がゆらゆら揺れているときというのは、何かに「これは違う」と思っているときですね。その揺らぎの正体を確かめながら、それを率直に、「今、私揺れているのよ」と言えるような仲間と進んで行ったらいいのではないでしょうか。また、こうしたセミナーのような学びの場が生かされ、そこで、等身大の私はこうしたいのよと目標に向けて戦略的にやって行ける、そういう仲間を得られたらすごくいいんじゃないかなというふうに思います。

参加者ひとこと感想

○　分かりやすいお話でとてもためになりました。特にお話が具体的で実例が豊富だったことと、歴史的な背景があって今がある、ということがしっかり説明がありよかったと思います。

○　家族や母のイメージが世代によって違っており、その意識が簡単に変わらないということが分かり、さまざまな価値観がある現実の中で自分を肯定してよいという気持ちになりました。「このままの自分でよいのか？」という思いがいつもあったので・・・

平成２６年度あさか女と男セミナー
連続講座「みんな(女・男)でつくる安心な家庭」
参加者アンケート集計

１．　あなたの年代・性別を教えて下さい。

	７０代以上	６０代	５０代	４０代	３０代	２０代	１０代
第１回	３名	３名	４名	１３名	０名	０名	０名
第２回	０名	２名	１名	５名	３名	０名	０名
第３回	０名	２名	０名	３名	１名	０名	１名
第４回	４名	３名	０名	５名	１名	０名	０名
第５回	３名	３名	１名	５名	１名	０名	０名
計	１０名	１３名	６名	３１名	６名	０名	１名

	女性	男性
第１回	１６名	３名
第２回	１１名	０名
第３回	７名	０名
第４回	７名	０名
第５回	７名	１名
計	４８名	４名

【記載なしあり】

２．　このセミナーを何で知りましたか？

	広報あさか	ちらし	ホームページ	友人・知人・団体等の声かけ	市の職員から	その他
第１回	１１名	７名	０名	３名	２名	１名
第２回	５名	３名	０名	１名	１名	１名
第３回	３名	１名	０名	１名	０名	２名
第４回	６名	２名	０名	１名	４名	１名
第５回	８名	２名	０名	２名	３名	０名

【複数回答あり】

３．　なぜ、セミナーに参加しようと思いましたか？

第１回

・テーマに興味があり参加した。また、自分を見直してみたいと考えて。

・以前のお話がとてもおもしろかったので、ぜひ、また違った視点からのお話も聞いてみたかったから。

・男性が聞くことで、勉強になると思ったため。

第２回

・４０代になり更年期を過ごす知識が欲しかったため。

・女性として生きてきて、今３０代後半、心・体いろいろなことに心配な時期にきており、ぜひ話をお聞きしたいなあと思いました。

・堀口先生のお話を伺いたかったから。

第３回

・護身術をいつか学びたいと思っていたから。
・ぜひ、学んでみたかったので！本当に出られてよかったです！！

第４回

・中学生の娘がいて、危険も分からずインターネットなど使っているようなので私が勉強して家で話し合おうと思ったので。
・情報時代に全く縁遠く、ついていくのは無理と思う日々です。０より１とお話を伺いたくて、思いきって参加しました。
・情報に振り回されないためには？

第５回

・自分自身のスキルアップ。
・「男女共同参画」を正しく理解するため。
・今日のテーマに以前から関心がありましたので。

４．　セミナー開催日時はいかがでしたか？

	参加しやすかった	参加しにくかった	その他
第１回	１９名	１名	０名
第２回	１１名	０名	０名
第３回	６名	０名	０名
第４回	１１名	０名	０名
第５回	１１名	０名	０名

５．　参加しやすい日時はいつですか？

		午前	午後	夜間
第１回	平日	１２名	１名	３名
	土・日	９名	３名	２名
第２回	平日	６名	１名	１名
	土・日	２名	１名	０名
第３回	平日	１名	２名	０名
	土・日	３名	１名	０名
第４回	平日	６名	０名	０名
	土・日	１名	０名	０名
第５回	平日	６名	１名	０名
	土・日	１名	０名	０名

【複数回答あり】

６．　セミナーを開催する季節はいつがよいですか？

	春	夏	秋	冬	いつでもよい
第１回	3名	0名	9名	2名	8名
第２回	3名	1名	2名	0名	4名
第３回	1名	1名	2名	0名	1名
第４回	2名	1名	5名	0名	2名
第５回	2名	0名	4名	0名	3名

【複数回答あり】

７．　印象に残ったテーマや内容はどれですか？（複数可）

第１回	気がつけばあなた(妻・夫)　～やわらかな関係づくりのために～	10名
第２回	女性の不調を吹き飛ばそう！　～健康美を目指すあなたのために～	6名
第３回	その命、絶対守れる！　～自分の心と身体の力に気づいてほしい～	2名
第４回	その情報、安心して使っていますか？発信していますか？ ～情報の渦に巻き込まれないために～	9名
第５回	男女共同参画を学ぼう　～安心な家庭をつくるために～	8名

８．　今後、このセミナーで取り上げてもらいたいテーマはありますか

・よりよい生き方をするために活力を与えてくれるセミナーをお願いします。
・家庭内での男女平等について（家事の分担、夫への協力の求め方）
・さまざまな地域活動について、どのようなものがあるか、どういうときに役立つかなど知りたいです。大きな地震、風水害があったときに、地域でのつながりが必要だと思いましたので…
・夫婦問題だけでなく、家族のコミュニケーションの取り方等のお話を伺いたいです。
・地域活性化に伴う、ハード・ソフトの環境デザイン
・空き家の効率利用と活用（定期的イベントの企画・歌声広場、コンサート、書道、花など）

９．　このセミナーに参加して、日常生活の中で変わったことや気付いたことなどがありますか？

①　ある	②　ない	③　わからない
12名	0名	1名

「①　ある」と答えた方

- 学ぶということが生活を変える第一歩だと感じました。今後もいろいろなことを学んでいきたいです。
- わが家の男女で考え、話し合えるようになった。
- 夫婦はお互いを理解することが大事。
- 常に意識を持って生活をするように。
- 情報収集についての話を家族とできた。
- 男女平等を自分の都合のいいように使っていたかもと反省。枠にはめられた、マスコミの流すイメージにとらわれすぎていたかも。
- 検診はサボらずに行くことが大切だと思いました。
- 分かっているつもりで分かっていない部分があったように思います。老いが怖くなくなりました。
- 主人に自分の意見を言って、話し合いの場を持ってみようと思いました。
- 相手の立場に立って受け入れること、夫婦関係のみならず、親子、あらゆる人間関係に通じると思いました。

１０．　朝霞市では男女平等を進めるためにさまざまな取り組みをしていますが、あなたが知っているものはどれですか。（あてはまる番号すべてに○してください）

１	朝霞市男女平等推進行動計画	７名
２	朝霞市男女平等推進条例	５名
３	朝霞市男女平等推進審議会	５名
４	朝霞市女性センター（それいゆぷらざ）	１２名
５	「あさか女（ひと）と男（ひと）セミナー」	１０名
６	朝霞市公式ホームページに掲載の「あさか男女（ひと）の輪サイト」	２名
７	男女平等推進情報紙「そよかぜ」	１０名
８	男女平等苦情処理委員	４名
９	女性総合相談	７名
１０	ＤＶ相談（配偶者暴力相談支援センター）	９名
１１	能力開発支援に関わる制度（起業家育成セミナー・起業家育成相談）	１名
１２	人権擁護委員の設置（人権相談の実施）	３名
１３	その他【具体的に　　】	０名
１４	知っているものはない	０名

◇平成２６年度　あさか女(ひと)と男(ひと)セミナー参加者人数◇

	テーマ	参加者人数
第１回	気がつけばあなた(妻・夫)～やわらかな関係づくりのために～	３２名
第２回	女性の不調を吹き飛ばそう!～健康美を目指すあなたのために～	１９名
第３回	その命、絶対守れる!?～自分の心と身体の力に気づいてほしい～	１４名
第４回	その情報、安心して使っていますか?発信していますか? ～情報の渦に巻き込まれないために～	１９名
第５回	男女共同参画を学ぼう～安心な家庭(くらし)をつくるために～	１８名
計		１０２名

平成２６年度

あさか女（ひと）と男（ひと）セミナー報告書

発行年月　　平成２７年3月

発　　行　　朝霞市

編　　集　　朝霞市女性センター それいゆぷらざ

〒３５１－００１６　埼玉県朝霞市青葉台１丁目７番１号

電　話　　０４８－４６３－２６９７

ＦＡＸ　　０４８－４６３－０５２４

Ｅ-mail　soreiyu@city.asaka.saitama.jp